



令和7年産 気仙沼・南三陸 稲作情報 第7号

令和7年8月22日発行
宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター
TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

- 落水時期は出穂日30日以降を目安としましょう。
- 高温の影響により登熟は早まると見込まれます。刈り遅れによる品質低下を防ぐため、適期刈取に努めましょう。

1 今後の栽培管理

(1) 水管理

- ・落水時期は出穂後30日以降が目安ですが、ほ場条件、天候、登熟状況などを考慮して時期を決定しましょう。
- ・落水後の好天が続き、田面が乾き過ぎるときは、走り水程度のかん水をしましょう。

(2) 適期刈取りの判断

- ・管内の出穂期は8月1日で、平年（過去5か年の平均）の8月3日より2日早くなりました。
- ・出穂後の積算気温による刈取適期の目安は、「ひとめぼれ」で940℃～1,100℃です。
8月1日に出穂期を迎えたほ場の刈取適期は、9月9日から9月16日頃となる見込み（8月20日現在）ですが（表1参照）、出穂以降の気温が平年より高く推移していることから、収穫時期は目安より早まる可能性があります。
- ・収穫適期に達する積算気温は品種により異なります。表1を参考に適期刈取に努めましょう。
- ・「金のいぶぎ」は穂発芽しやすい（穂発芽性が“中”）品種であることから、成熟期の積算気温に達したら発芽粒が発生しないように早めに刈り取りましょう。また、胚芽の欠損が商品価値を低下させることから、乾燥・調製に当たっては、特に注意が必要です。
- ・一般的には、籾の80～90%程度が完全に成熟して黄色になり、穂軸が先端から3分の1程度黄変したときが成熟期です。穂の熟色等をよく観察して刈取適期を判断しましょう。
- ・倒伏したほ場では、穂発芽による品質低下が起きやすいので、刈取早限になったら直ちに収穫しましょう。
- ・天気予報を確認し計画的に作業しましょう。

表1 品種ごとの積算気温による刈取時期の目安（8月20日現在）

品 種	早晚性	出穂後の積算気温	出 穂 期					
			7/28	7/30	8/1	8/3	8/5	8/8
ひとめぼれ	中生	940～1,100℃	9/4～11	9/6～13	9/9～16	9/11～18	9/13～21	9/17～25
ササニシキ	中生	930～1,150℃	9/3～13	9/6～16	9/8～18	9/10～20	9/13～23	9/16～28
金のいぶぎ	やや晩生	1,050～1,150℃	9/9～13	9/11～18	9/13～18	9/16～20	9/18～23	9/22～28
品 種	早晚性	出穂後の積算気温	出 穂 期					
			8/7	8/9	8/11	8/13	8/15	8/17
みやこがねもち	やや晩生	950～1,150℃	9/16～26	9/18～29	9/21～10/1	9/23～10/4	9/26～10/7	9/29～10/11

※アメダス地点は、気仙沼。

※積算気温は、8月20日までは実測値、8月21日以降は過去5カ年（令和2年から令和6年）の平均値を使用。

今後高温が見込まれるため、目安より早まる可能性があります。

【表1の見方】

「ひとめぼれ」の出穂期が8月1日の場合、9月9日（刈取早限）から9月16日（刈取晩限）が刈取適期と見込まれます。

表2（参考） 管内における水稻の出穂状況

	出穂始期	出穂期	穂揃期
R7	7/29	8/1	8/8
R6	7/28	8/1	8/7
平年	7/31	8/3	8/10

管内における出穂期は8月1日となり、前年と同じ、平年より2日早くなりました。

※「出穂始期」、「出穂期」、「穂揃期」は、管内の水稻作付見込面積に対して、出穂に達した面積が5%、50%、95%以上となった日
 ※「平年」は、過去5カ年（令和2年から令和6年）の平均

(3) 籾熟色によるコンバイン収穫期の予測判定

「ひとめぼれ」では、平均穂数株において稈の長さ中庸な枝梗数8本の中位二次枝梗籾の籾色を観察することにより成熟段階が判定でき、刈取適期を予測できます。

成熟段階	籾熟色	備考
I	第1位籾が急速に黄化開始	
II	第1位籾がほぼ黄化（90%）	
III	第1位籾が殆ど黄化し（90%）、第2、3位籾が黄化開始	刈取適期
IV	第1位籾の黄化100%、第2、3位籾が30%黄化	
V	第2、3位籾が50%以上黄化	

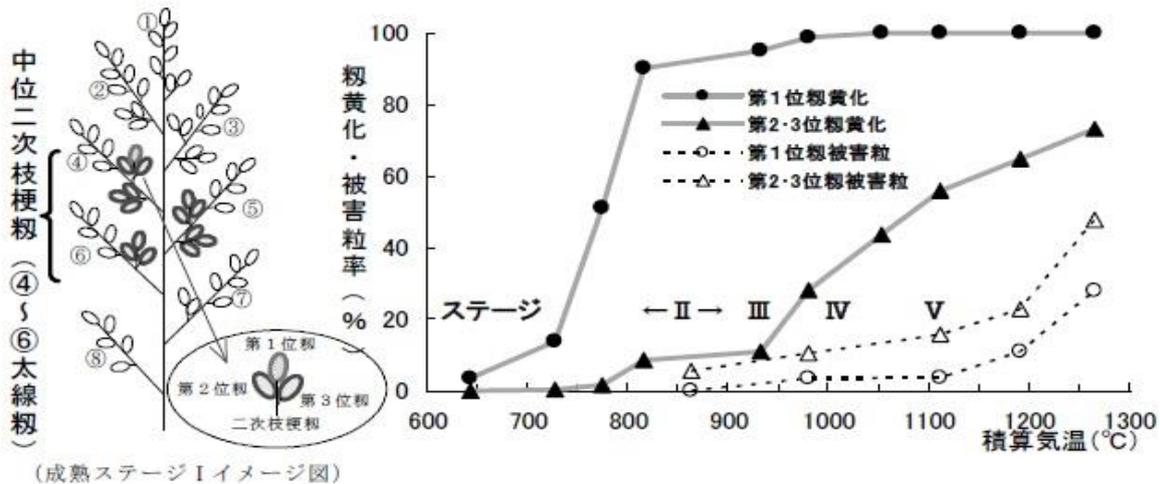


図1 積算気温と穂の中位二次枝梗籾黄化率の推移

2 良食味・高品質米に仕上げる収穫・乾燥調製

(1) 収穫作業

- コンバイン収穫では籾水分が高いと収穫時に損傷が多くなるので、籾水分 25%以下を目標に刈り取りましょう。
- 複数の品種の刈取りを行う場合、品種が替わる際に十分な清掃を行い、機械内における異品種の混入を未然に防ぐよう注意しましょう。
- 倒伏している場合は、他の稲とは別に「刈分け」を実施し、収穫物に石など異物が混入しないよう注意しましょう。

(2) 乾燥・調製作業

- ・収穫した生籾を放置すると発熱して変質米の原因になるので、刈取り後、速やかに乾燥機に張り込み、送風しましょう。
- ・倒伏した稲や未熟粒の多い稲などを機械乾燥する場合は、二段乾燥を行い、水分ムラや胴割米の発生を抑えましょう。**今年はお穂後に高温が連続しているため、特に胴割米の発生が懸念されることから、二段乾燥に努めましょう。**

※【二段乾燥】籾水分が18%程度になったら火力乾燥を一時中断し、一定時間通風循環後に仕上げ乾燥を行う。

- ・正確な水分測定のためには、玄米の測定サンプルから未熟粒を取り除いて測定しましょう。また、こまめに水分測定をすることで過乾燥を防止しましょう。仕上がり玄米水分は14.5%～15.0%が目標です。
- ・**今年はお穂後に高温が連続しているため、白未熟粒の発生による落等が懸念されることから、可能であれば色彩選別機を使用しましょう。**
- ・異品種の混入を防ぐため、品種が替わるごとに機械類の清掃を徹底しましょう。

3 気象の概況

梅雨明け（東北南部）は7月18日頃となり、前年より14日早く、平年より6日早くなりました。7月は平年より日照時間が長く、平均気温が高く推移しました。8月上旬は日照時間が大きく減少しましたが、平均気温は平年を上回り推移しました。依然として少雨が続いています。

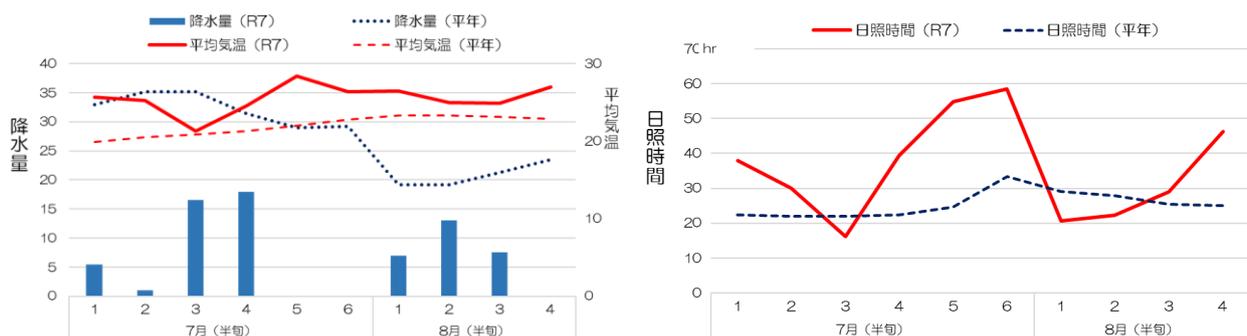


図2 気象経過図（気仙沼アメダス、7月1日～8月20日）

4 高温に関する早期天候予報（東北地方）

（仙台管区气象台 8月18日発表）

東太平洋側 8月24日頃から かなりの高温

東北太平洋側の向こう2週間の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、かなり高くなる見込みです。

熱中症の危険性が高い状態が続きます。引き続き、屋外での活動等では飲料水や日陰を十分に確保するなど熱中症対策を行い、健康管理に注意してください。また、農作物や家畜の管理等に注意してください。

なお、1週間以内に高温が予測される場合には高温に関する気象情報が、翌日または当日に熱中症の危険性が極めて高い気象状況になることが予測される場合には熱中症警戒アラートが発表されますので、こちらにも留意してください。

【徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策】

秋の農作業安全確認運動展開中！
～令和7年9月1日から11月30日まで～



農作業安全運動について
（宮城県公式ウェブサイト）

次回の稲作情報（総括号）の発行は、令和7年12月下旬を予定しています。